

令和六年度

岡山中学校 「A方式」 問題Ⅱ

【注意】

- この試験は、文章や資料を読んで、太字で書かれた課題に対して、答えやあなたの考えなどを書く試験です。課題ごとに、それぞれ指定された場所に書きましょう。
- 試験用紙は、表紙(この用紙)をのぞいて五枚^{まい}あります。指示があるまで、下の試験用紙を見てはいけません。
- 「始め」の合図があつてから、試験用紙の枚数を確かめ、五枚とも指定された場所に受験番号を記入しましょう。
- 試験用紙の枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあつたりした場合は、手をあげて先生に知らせましょう。
- 試験用紙の  ※ には、何も書いてはいけません。
- この試験の時間は、四十五分間です。

課題1 次のI・IIはどちらも中野信子『バイアス社会』を生き延びる」からの文章です。これを読んで、(1)から(3)に答えましよう。

I かつてないほど国境を越えた行き来が活発になってきている現代では、国同士の争いによる影響は、その2カ国にとどまりません。直接的にも間接的にも、他の国とつながっていない国はほとんどないという状況では、自分たちは中立国だと思っても、実際にはどこかの国の影響を受けています。

日本もそうです。(中略)

私がここで話したいのは、日本が中立でないことの問題ではなく、自分たちが今、どんな色のメガネをかけているのかを知っておくことが大事だということです。

緑色のメガネをかけていれば、世界は緑色に見えます。

でも、その緑色の世界はあくまで自分がかけているメガネが見せている世界にすぎないのです。メガネを変えれば、見える世界も変わってきます。そのメガネこそが、私たちのバイアスなのです。

そもそも、多くの人は自分がメガネをかけているという自覚すらありません。

別にそのメガネを取らなくてもいいのですが、人間というのは自分でも気づかないうちに何らかのメガネをかけている、場合によってはかけさせられているものだと自覚しておく必要があるでしょう。

ネットで見た情報や、周りの人が言っていることをすべて信じるのではなく、自分の中に今色付きのメガネで世の中を見ていないか、と「疑う目」も育てておくことが大事です。特に一見わかりやすく入ってくる情報や、ワンフレーズで大衆を熱狂的に盛り上げるような人の言説に触れたら、立ち止まって反対側の意見も調べてみたり、別の面から物事を考えてみたりする。

こうしたことが、より客観的に物事を見る技術につながっていきます。

II 生物界では強いものが有利なはず、というのも実はバイアスにすぎません。

たとえば、メスは強いオスを好むのが繁殖行動の基本と言われていますが、必ずしもメスが強いオスに惹かれるとは限らないという現象があるのです。

これは実験データで検証された結果ではないので、生物界の一つのエピソードとして捉えていただきたいと思えます。

一般的に、オスはメスを獲得するために戦い、メスは勝ったオスを選ぶというのが生物界の定説です。しかしネコ科の一部の動物では、勝ったオスより負けたオスにメスがついていく例が見られるそうです。

考えてみれば、乳をふくませて次世代を育てる哺乳類の場合、生まれたての時期はひ弱で脆弱な存在です。他の生物に狙われることもあります。そのため、親は巣をつくったり食べ物を与えたりして、献身的に子の世話をしなければいけません。

ですから、もともと弱い者に対して愛情を持つようにつくられていないと、子どものために多くの時間やコストをかける行動にはつながりません。何もできない未熟な子どもたちを「こいつらは何もできない」と言って見捨てる親たちばかりだと、その種はすぐに滅びてしまうのです。

ですから、哺乳類は強いものに惹かれる一方で、弱いものにも惹かれるという性質を持っていると考えられます。

その他にも、戦いに強いオスより求愛行動の上手なオスがメスに選ばれる生物の例もあります。それも、自分たちの種をより多く残していくための生存戦略でしょう。(中略)

このように必ずしも力の強いものが有利とは限らないというのが、生物界の面白いところです。

(中略)
あなたがあなたやあなたの周りの人々を覆うバイアスの存在に気づき、物事の見方を変えれば、あなた自身の考え方や行動が自然と変わっていきます。これは当たり前のことです。でもこの当たり前のことが起こるとき、あなたを取り巻く世界は一変します。このことは、あなたがこれからは生き抜いていくための、シンプルだけれどもきわめて強力な武器なのです。

*脆弱…もろくて弱いこと。

(4枚め)

受験番号

(1)※

(2)※

(3)※

(4)※

3※

課題3 太郎さんと花子さんは、修学旅行について資料1～3を見ながら、先生を交えて話し合いました。あとの会話を読んで、(1)～(4)に答えましょう。

先生：資料1は、海外修学旅行を行った中学校と高等学校を対象に実施したアンケート調査に基づいてつくったものです。中学校と高等学校が訪問した国および地域の1位～5位をまとめています。また、資料2は、資料1の国および地域の位置を地図上に示したものです。そして、資料3は、2018年度と2019年度の月別の海外修学旅行を実施した学校数を棒グラフで表したものです。これらの資料から、どのようなことが読みとれますか。

太郎：資料1をみると、訪問した国の上位5カ国には、ヨーロッパやアフリカなどの国はありません。訪問した国は、地域区分だと [1] に属する国や地域が多いです。

(1) 会話文の [1] に入る語句を考えて書きましょう。

[Blank box for answer 1]

先生：確かにそうですね。どうして [1] に属する国や地域が多いのでしょうか。

花子：[1] に属する国以外の地域は、英語を中心に使っている国が多いです。修学旅行で訪れた国で、英語の勉強の成果を確かめようとしているのだろうということはなんとなく予想がつきます。

(2) [1] の国や地域が修学旅行先として選ばれるのはなぜですか。その理由として考えられることを、資料2を参考にして書きましょう。

[Blank box for answer 2]

太郎：資料3を見てください。2018年度に比べて、2019年度は3月の実施がとて少なくなっています。これはなぜですか。

先生：それは、2020～2022年度に海外修学旅行がほぼ行われなかったことと同じ理由がありますよ。よく考えてみましょう。

太郎：なるほど、わかりました。 [2] ですね。

(3) 会話文の [2] に入る会話文を考えて書きましょう。

[Blank box for answer 3]

(4) あなたが中学校や高等学校の海外修学旅行で訪れたい国(地域)を1つ書きましょう。さらに、その理由も書きましょう。ただし、会話文で触れられている内容以外の理由を書きましょう。

| | |
|-----------|--|
| 国 (地域) | |
| 理由 | |

| | |
|----------|--|
| 受験 番号 | |
|----------|--|

資料1 中学校・高等学校の海外修学旅行先（国および地域）

| | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 第1位 | 韓国 | 韓国 | シンガポール | 台湾 | 台湾 | 台湾 | 台湾 | 台湾 | 台湾 |
| 第2位 | オーストラリア | オーストラリア | 台湾 | オーストラリア | シンガポール | オーストラリア | シンガポール | シンガポール | シンガポール |
| 第3位 | シンガポール | シンガポール | オーストラリア | シンガポール | オーストラリア | シンガポール | オーストラリア | マレーシア | マレーシア |
| 第4位 | マレーシア | マレーシア | マレーシア | グアム | マレーシア | ミクロネシア | マレーシア | オーストラリア | オーストラリア |
| 第5位 | 中国 | グアム | グアム | マレーシア | グアム | マレーシア | 中国 | アメリカ合衆国 | ハワイ |

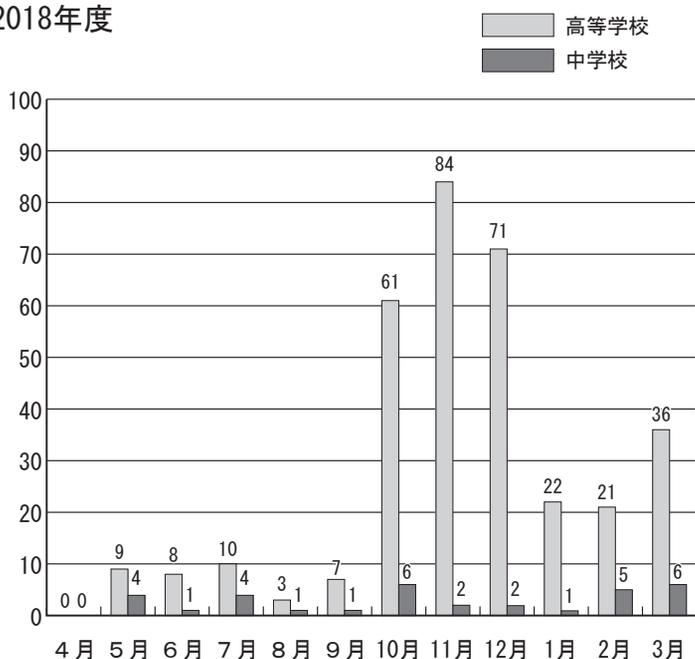
(『公益社団法人日本修学旅行協会』から作成)

資料2 資料1の海外修学旅行先数として1位～5位になった国および地域

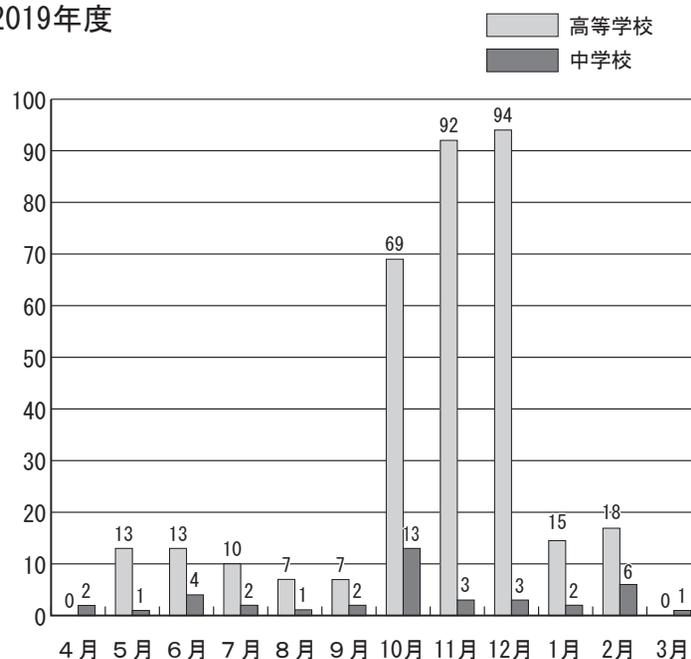


資料3 中学校・高等学校の海外修学旅行の実施月（件数）

2018年度



2019年度



(『教育旅行年報データブック 2022』一部編集して作成)